

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.264 特集:共創の未来へ

Fast Alone, Far Together.



早く行きたければ、ひとりで進め、
遠くまで行きたければ、みんなで進め。

*外務省ジャパンSDGsプラットフォーム

このプラットフォームは、SDGsに関連した情報を社会に幅広く紹介することを目的に、企業、自治体、NGO/NPO、教育機関等の取り組みを掲載しています。

PREXもその中で紹介されています。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>





海外協力隊を経て、 ビジネスの世界へ。

辻プラスチック株式会社の林 佐紀です。

弊社は、ニジェールとセネガルに現地法人があり、その支店を通して製品のサブスクリプションのビジネスをしています。アフリカは約6億人が電気のない生活をしていますが、携帯電話の需要はとても高いです。携帯を持っていたとしても、問題は充電で、4キロ先まで充電しに行くという方もいました。効率が悪く、充電費用もかかるため、なんとかできないかと留学生・現地の方と太陽光で発電し、USBで直接つないで、ランタンや携帯電話に充電ができる製品を開発しました。

中小企業の強みは技術力、中小企業ならではのフットワークの軽さ、支援窓口の存在です。その反面、情報収集、語学、人材などに限りがあります。海外ビジネスをするとなると現地パートナーの発掘が一番のネックになります。

協力隊の強みは、現地に実際に居住した経験から、「現地の人目線」で生活の価値や質が見えること。アフリカに派遣された協力隊は体力と「なんとかなる」精神が強い傾向にあると思います。問題にぶち当たった時も、「どうしようか」と悩んで止まってしまうのではなく「じゃあこうしよう」と解決策を考えることが自然と身についています。アイデアを出す癖がついているということです。ただ、協力隊は2年という期限付きで、使える資金には限りがあります。また、あくまでもボランティアで、ビジネスの経験や知見が限られます。

企業と協力隊が協力した結果、お互いの課題を補えたところが多くありました。今、弊社ではエンジニア、上司、そして私がアフリカ案件を担当しています。過去は上司が1人で担当していましたが、案件が増えると人材が必要です。アフリカは今後人口が増えてマーケットが大きくなります。また、弊社の製品が一番生かせるのもアフリカだと考えています。

私はアフリカのファン。でも上司はアフリカが好きなわけではなく、ビジネス展開をすることに興味があります。アフリカ好きな人ばかりの会社だと周りが見えなくなりますが、アフリカ好きがいて、ビジネス目線で考えられる人もいます。両方の視点がないと、ビジネスの統制もうまくいかないのでしょうか。

国際交流部の前田(智)です。

アフリカのことわざに「Fast Alone, Far Together」というものがあります。

「早く行きたければ、ひとりで進め、遠くまで行きたければ、みんなで進め」という意味です。

アフリカビジネス展開のために、辻プラスチック株式会社は、留学生や現地の方々と協働し、商品開発、販売をされています。また、アフリカ事業チームを越えて会社全体の交流も生みだしています。そうして全員の協力で、現地で本当に使える製品を製造されています。まさにことわざ通り。このコミュニティ間の仕掛け人、間をつなぐ人が元協力隊の林さんです。お互いの強みや弱み、限られた知識や経験から、お互いの課題を補完し、新しい取り組みを生み出し、問題解決に取り組める人材が企業では求められており、協力隊はそれができるのではないかと考えています。

※e-toco の内容全文はPREXのウェブサイトに掲載。





グローバルな課題解決力はどこにいても応用できます。

2

JICA関西 海外協力隊 相談役の津田です。

協力隊は、途上国での2年間の活動の中で、現地の方と同じ目線で同じ生活をしてニーズを探りながら活動をする、現地の状況を見極め、できることを自ら考えて行動します。

そこは日本人もいない、言葉も文化も異なる土地で、自ら考えて物事を進めなければいけません。バイタリティやストレスへの耐性、そして推進する力がつきます。

帰国後は、海外活動に限らず、様々な課題に向き合って解決する力を日本や国際社会で発揮してもらいたいと思っています。グローバルな課題を解決した力は国内にいても、どこにいても応用できます。

協力隊経験者に关心を持たれたら、ぜひご連絡ください。

- JICA海外協力隊ポータルサイト:<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>
- 海外協力隊相談役の連絡先:https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/index.html
- 国際キャリア総合情報サイトPARTNER: <https://partner.jica.go.jp/>

※e-toco の内容全文はPREXのウェブサイトに掲載。



自分で考え 行動して 課題をクリアしてゆく。

スターフードジャパン 新古佑子社長、平松佑理さん
<http://starfood-japan.com/>



JICA海外協力隊として、フィリピンで活動していた平松佑理さんは、現在、地方の魅力や良いものを発信している、スターフードジャパン(和歌山)で活躍しています。フィリピンで活動していた平松さんが、その後、どういう風にして、日本の「地方」につながったのか、そして企業にとっての「協力隊経験者」の魅力について、新古社長と平松さんから伺いました。
詳しくはPREXのfacebookページ内 e-toco をご覧ください。

PREXオンラインカフェ「e-toco(えーとこ)」

関西の国際化につながるような、人材の多様性(ダイバーシティ)を実現することを目的に、内外のいろんな方々のお話をご紹介しています。3月から3回にわたって、「JICA海外協力隊」をテーマに取り上げました。

<なぜe-tocoで協力隊経験者を紹介するの?>

「JICA海外協力隊」は日本の人材が途上国に身を置いて、同じ目線でニーズを探りながら活動する、国際協力の活動です。PREXにも協力隊経験者が今も3名勤務しています。見ていると、問題解決力や、多様な立場の人との協働・連携の方法など、途上国での経験は、とても貴重だな、と実感します。

e-tocoは「関西の国際化に貢献するダイバーシティの実現を」ということを目標にしています。途上国での経験を持つ「グローバル人材」と言える、協力隊経験者のことを、広く知ってもらい、その人材が活躍することが、関西や日本の国際化にもつながると思い、3回連続でお届けしました。

<世界を繋ぐ人材とは?>

e-toco #8、#9、#10は「世界を繋ぐ人材とは? JICA海外協力隊員の可能性と帰国後の活躍事例」と題して配信しました。まず、JICA関西 海外協力隊 相談役の津田昌二さんをゲストに迎え、海外協力隊について、帰国後の様子、どうすれば企業の皆さんが出会えるのか?などを伺いました。

#9では、滋賀県にある辻プラスチックの林佐紀さんに、#10では、和歌山県にあるスターフードジャパンの新古佑子社長と平松佑理さんにゲスト出演いただきました。

すべては、「人」。

人が変わると、組織が変わる。

組織が変わると、会社が変わる。

会社が変わると、社会が変わる。

社会が変わると、世界が変わる。

4

マインさん

畠ダイカスト工業の製造リーダーのグエン・ゴック・マインです。

入社して3年になります。今はベトナムから家族が来て一緒に日本で生活しています。

社長はいつも「自分で学んだ知識を自分のためだけに使うのはもったいない」と言います。

「PREXベトナム人リーダー育成研修2020」に参加させてもらい、強い企業にはいくつか特徴があることを学びました。まず、一つ目は、経営理念を重視しているということです。

長く続いている企業はしっかりと経営理念があり、さまざまな経営の決定は、経営理念が軸になっています。そして、将来のビジョンと会社の目標があります。そこから各部門が目標を立て、個人が目標を立てる、このしくみが大切だとわかりました。もし、社員一人一人が目標を達成できれば、会社も目標を達成できることになります。

畠ダイカスト工業の経営理念のなかで一番好きなのは、「いい人間を作り、いい製品を作る」というところです。

畠社長：マイン君に「PREXベトナム人リーダー育成研修」に参加してもらったのは、日本の会社の考え方を理解し、新しく入社したベトナム人社員に、学んだことを伝えてほしいと思ったからです。今、彼は、技能実習生と私の仲介役となり、「日本はこうだよ」と説明する役割を果たしています。研修に参加する前は、暗い顔をしているときもありましたが、今は明るく働いています。「PREXの研修でこんな説明があったやろ?」と聞くと「忘れた」というので困るときもあります(汗)。でも、すぐに思い出して行動してくれています。

ベトナム人社員と共に
OSAKAの町工場を世界にPR!

ドンナイ省から大学教授グループが弊社に会社見学に来られました。

マインさんが日本語で説明し通訳の方がベトナム語に訳して説明しました。



OSAKA
町工場
EXPO2020
世界初、企画パーソナルツアー開催



「OSAKA町工場EXPO2020」で
工場見学バーチャルツアーに参加しています。

5



畠 社長

こんにちは！畠ダイカスト工業の畠 浩基です。

職場環境はすごく厳しいです。とにかく暑い。これまで、国籍、宗教、文化、性別など関係なく弊社で働いてみたいという人を採用してきましたが、全員が辞めていきました。魅力のある会社に変わらないといけないと考え、それまでやってきたことの真逆のことをしはじめました。

まず理念を作りました。「世界中の企業・人と知り合い、いい人・いい製品を作り、関わる全ての人の夢の実現を目指します」。いい人づくりをしながら、いい製品を作りたい。「いい人」が作った「いい亜鉛ダイカスト部品」で関わる全ての人が幸せになれるような活動を、我々はていきたいとの思いです。

10年ビジョンの中で2030年に年商2億円の工場をベトナムに作ろうと計画しています。この計画は、私一人でたてたのではなく、マイン君も一緒に計画しました。そして、理念、ビジョン、計画、会議、朝礼、週礼、週末の会議などを大切にしています。マイン君には、私たちと一緒にになって会社を作っていくのを手伝ってくれることを期待しています。

製造現場は職人の世界なので、共通言語がなくても見て感じて覚えることが大切です。自分がこの仕事に入ったときに職人さんに「教えて」と言っても誰も教えてくれず「見て覚えろ」と言われました。となると、言葉で説明を求めようとする日本人より、じっと見て感じて覚えようとするベトナムの方のほうが、ずっと習得が早いのです。もともと職人の世界は、言葉や国を超えているのだと思います。

私は、技能実習生にうちに来てもらうときには、その技能実習生のベトナムの実家を訪問しています。向こうのお父さん、お母さん、親戚や近所の人、誰かわからない人も集まってきて「初めて日本人が来た！」と迎えてくれます。向こうのお父さんもお母さんも自分の子がどこに行こうとしているのか、どんな社長か、信用できるのか、絶対心配しているだろうな、絶対会いに行って、挨拶しておくべきだなと思っています。



畠ダイカスト工業株式会社

東大阪市西石切町、亜鉛ダイカスト鋳造(超精密部品)

主な生産品は、自動車の部品や住宅用の建築金物等の大物加工から、超精密部品であるエンジン内部のシリンダーの加工まで多岐にわたる。

従業員数10名、うち5名がベトナム人。

畠社長は、2017年に2代目として事業承継。

畠社長のインタビュー続編はこちら→



2006年 ISO9001取得

2018年 大阪の元気なものづくり企業 匠認定 経営力向上計画取得

私が紹介したい国。

今回は、児島職員がヨルダンを紹介します。



皆さん、 ヨルダンのイメージってありますか？



学校の校庭を思い出して下さい。砂地がイメージできますか？

その砂地が国土の8割を占めています。

水源は乏しく、空気は乾燥しており、夏は日差しが強く、冬は凍えるほど寒いです。

殺風景な国だと思いましたか？いえいえ、それは景観だけです。

砂地の国土の中に街が点在し、そこには砂の色をした建物がそびえ、食べ物や雑貨が並ぶ市場があります。

店主が道行く人に叫ぶような声で物を売り、客も負けんとばかりに大声で、値段や品物の交渉をします。

子どもの笑い声、鳴りやまない車のクラクション音、街は大変騒がしく、元気いっぱいです！

今回はそんなヨルダンで生活する難民の人々のお話をしたいと思います。

ヨルダンは国民一人当たりの難民受け入れ数が世界第2位の難民受け入れ大国で、パレスチナやシリアなどの周辺地域から多くの人々が逃れてきます。

つまり、自分の国で苦しい経験をした人々の多くがヨルダンで生活をしています。

私は、そんな難民の方々にお会いして、対話を重ねました。実際の彼らの暮らしは非常に厳しく、生活を支える国際援助も頼りになりません。支援を得ることが出来ない難民の方も多くおり、どれだけ大変な生活をしているのか、私の想像力では追いつきません。しかし、彼らはなんとか生活を続けています。どうやって！？

その答えの1つが「みんなで助け合っている」からだと私は思います。彼らは食事を分け合ったり、子どもの面倒を見合ったり、家族や友人、時には地域の人と助け合って生活をしていました。私は、みんなで支え合う力の大きさ、そして優しさを目の当たりにしました。「困ったときはお互いさま」。日本には、こんな言葉があります。

コロナ禍で厳しい生活が続きますが、みんなで助け合って踏ん張りましょう！(国際交流部 児島)



3人兄弟の子どもたちと。学生時代に日本国際民間協力会(NICCO)でインターン生として活動し、シリア難民の支援のため、3ヶ月間をヨルダンで過ごしました。

* PREXウェブサイト「世界は人で、できている」では、PREX職員が、さまざまな国の人々の情報を紹介しています。→



PREX流カイゼン術。



研修員に紹介している カイゼン活動を自らやってみよう！

皆さん、こんにちは。

カイゼン事務局の岡本(愛)、島田です。

PREX職員は現在23名。海外協力隊、JICAボランティアでアフリカ・中南米への派遣経験がある職員、大学で国際交流関係の研究をしたもの、関西の企業からの出向者など多彩なバックグラウンドをもった人々の集合体です。各々の経験を活かして業務に従事しています。

「私たちが研修の中で紹介しているカイゼン活動を自らやってみよう！」と2015年度から職員全員参加でカイゼン活動に取り組んでいます。4つのグループに分かれ、それぞれが持ち寄った職場環境改善・業務改善を年間を通じて実施し、SDGsのゴールに沿って「改善テーマ」「方策」「効果」を評価し、年度末にカイゼン大会を実施。その成果に対する報奨制度も設けています。

皆がカイゼンを楽しくできるように運営するのは難しいですが、事務局3人で知恵を絞って頑張っています！



デフォルト・レイアウトを変えてスッキリ！

毎週の会議の度に、大島一小島→大島への配置変更をしていたのを小島レイアウトをデフォルトに変えて効果抜群

【これまでのカイゼン活動の例】*2015～2020年度までに138件のカイゼン活動を実施しました。

その中から、いくつかをご紹介します。

- ・ 物品資料の定量・定位置の5S活動→整理整頓状況を維持するため各チームで「5Sパトロール」隊を結成
- ・ 不用なコピー用紙を再生し研修員に渡す修了書としてアップサイクル
- ・ コピー用紙や研修員配布用の研修ファイルのグリーン調達化
- ・ 二酸化炭素排出削減のため『来客コップをプラからエコ素材に』
- ・ 効率的効果的な会議運営のために『スタンディングテーブル導入』
- ・ 職員の健康維持向上のための『3時のラジオ体操』

今年度は「今いちど改善の原点に立ち返り、チーム力アップ」を目標に、みんなで楽しみながら活動していきます。



NEWS &TOPICS

今月号は、アフリカのことわざを紹介しました。私たちの組織や社会でも、自分で決める、もしくは同じ価値観の人だけで意思決定すると、物事を早く進めることができます。でも国や文化や背景など価値観の違う人たちとの意思決定となると「早く」はできない。しかし、みんなが輝ける社会という「遠くへ行く」ためには、時間をかけて、オープンで多様性に富んだ共創の精神を育む必要があるとPREXは考えています。ご意見をぜひお聞かせください。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

令和2年度 「大阪市女性活躍 リーディングカンパニー」 市長表彰の中小規模 企業部門「優秀賞」を受賞しました！

2021年3月8日、女性が活躍できる職場環境づくりを進めている団体として、PREXは、令和2年度「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」市長表彰の中小規模企業部門「優秀賞」を受賞しました。



関経連より感謝状

公益社団法人 関西経済連合会が、2020年12月に『関経連アセアン経営研修』に対し、外務大臣表彰を受賞されたことを受け、2021年3月3日、同会より感謝状を授与されました。

「『関経連アセアン経営研修』において、1990年から30年間、運営の実務を担い、関西経済連合会とASEAN各国との関係強化ならびASEANとのネットワーク構築に貢献し、永年の協力に対して感謝の意を表する」感謝状です。

PREXは、今後とも研修事業を通してASEANとのネットワーク構築が更に強固なものになるよう、より一層尽力してまいります。

関西経済連合会井上理事より
感謝状を受け取る
PREX専務理事 岡本



何でも聞いて委員会！

PREXのこと、SDGsのこと、なんでもお聞きください。いつしょにできることがあるかもしれません。質問やご意見お待ちしています。
prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp



2021年度19件の研修・交流事業を 実施します！

2020年度に続きオンデマンドやライブ配信による遠隔研修を中心に、19件の研修・交流事業を予定しています。

最新の研修レポートはPREXのウェブサイトで紹介しています。→



PREXは2021年4月、設立31周年を迎えました。途上国の経営幹部や行政官を対象に、主に産業振興分野の研修を実施し、研修参加者数は18,842名／154カ国・地域となっています。

世界の食卓 ヨルダン編

週に一度の休息日、親戚が集まって食べる朝食です。

この日は、4家族が集まっていました。おススメは、ひよこ豆をペーストしたものを揚げた「ファラフェル」。おなかもちが良くて美味しい。

みんなで美味しいものを分け合って過ごすゆっくりとした時間です。(児島)



新副理事長に木股 昌俊氏が就任

2021年度第1回臨時理事会において、
木股 昌俊氏(株式会社クボタ
代表取締役会長)が
新副理事長に就任しました。
2021年度の役員リストはこちら →



PREX NOW第264号(2021年8月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ:<http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー